

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 28 年 12 月 26 日(第 24 号)

発行：島田療育センターはちおうじ

「いのちの授業」を終えて、生徒は「いのち」や「障害」をどうとらえたのでしょうか？そんな感想を紹介します（その4）。

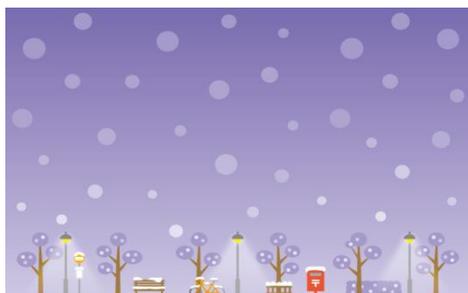
所長 小沢 浩

・さまざまな障害をもっている子どもたちを見て、ぼくはがんばらなきゃいけないと思いました。先日、NHK の番組で「野球いっしょにやろう」という番組がやっていました。1人の子どもA君がいてA君はB君と双子で産まれてきました。A君は生まれながら足に障がいがあり、外では車いす、中では歩くという生活でした。B君は普通の何も障がいがない普通の小学生でした。なのでB君は外で野球をやっています。でもA君はみんなに迷わくをかけるからといって野球ができませんでした。



しかしある日にB君がかけよってきて「野球やろうよ」と言いました。A君はよろこんで「野球をやる」と言って楽しそうに野球をやっていました。この番組を見たときにいつもは流さない涙が出てきました。ぼくは五体満足で産まれてきたので、お母さんに感謝し、障がいで野球ができない子のためにも、野球を一生懸命にやりたいです。そしてプロ野球選手になったら手術をやるお金がない人にぎえん金を自分たちで集めて寄付したいです。

・私は年に1回行っている病院でたくさんの方の障害者の方を見てきました。中にはベッドから起きられない人もいます。そんな人たちは天井や病院の風景しか見られないなんてことは、あまり考えたことがなかったのですがすごくつらいのではないかと思います。また、人の価値観というのは、他の人から決めることはできないということも知りました。人よりおとっていると考えるのではなく人よりできることを考えると私も十分障害者の方たちより劣っている部分があると思います。時代が変化することによって障害も変化するということはあまり考えたことがなかったけど、豊かな今だから障害があると感じられるのは少しさびしいような感じがしました。私が福祉体験でおじゃました施設も知的障害者の方がたくさんいましたが、どの人も1日1日をとても楽しんでいてかと思いました。毎日を楽しむということは楽しみ方を少し変えるだけで、どんな人でも同じようにできるんだなと思いました。障害をもっているもっていないなくても同じ気持ちで接することができるようになりたいと思います。



・本当は、最初めんどくさいと思う気持ちで行きました。でも、話を聞いたら、めんどくさがってはいられないということがわかりました。なぜ、そういう気持ちになったかというと、障害をもった赤ちゃんの動画を見たからです。世の中には、こんなに苦労している子がいるんだなと改めて思いました。

・「人は人の中でしか生きられない」のだなあと感じました。1人の人間が自分だけで生きていくには限界があります。なので全員が誰かを支え、また支えられて生きているのだろーと思いました。私が生まれ、いままで育ってきたことを忘れずにこれから生活していきたいです。

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著
クリエイツかもがわ より)

